

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①漢字検定・計算検定を行い、自ら学習に取り組む姿勢を育てる。合格表を渡したり、全級合格者を表彰したりすることにより、より高い目標をもって取り組もうとする学習意欲の向上を図る。②重点研では、本校の児童の読む力を高めるための支援の在り方を追究し、基礎・基本の充実を図っていく。	①漢字検定・計算検定の問題の見直しを図り、児童が意欲的に取り組めるようにした。検定の取り組み方も今後見直ししていく。②国語科で読む力の育成について追究した結果、言語活動を工夫することで、どの児童も意欲的に学習に取り組めることが分かってきた。	B
豊かな心	①ふわふわ言葉や挨拶の励行・礼儀正しい言葉遣いを意識する。学習ボランティアなど地域との交流により、顔と名前が分かる関係を築く。②異学年交流を充実させ、友達との関わりを広げるとともに、思いやりの気持ちや命の大切さを学ぶ。コミュニケーション力の育成に取り組む。	①生活目標の振り返りを毎月行い、挨拶の励行や礼儀正しい言葉遣いを心がける児童が増えてきた。学習ボランティアの方の学習サポートで、児童側の距離感も近づいてきた。②ペア学年活動を年間を通して行い、思いやりの心情やコミュニケーション力を養った。	B
健やかな体	①体力テストの結果をふまえ、さらなる体力向上をめざし年間を通して、「なわとび」に取り組む。児童が楽しみながら体力を向上させられるような取り組みを行う。②特別陸上クラブや合唱クラブの活動を通して、自らの体力向上や生活習慣の改善に前向きに取り組む態度を育てていく。	①なわとびを短期に集中して取り組めるようにしたことで期間中は意欲が高まった。次年度は継続して意欲的に取り組めるようにすることが課題となる。②特別陸上・合唱クラブの活動を通して、自ら体力向上や生活習慣の改善に取り組む態度を育てていく。	B
児童生徒指導	①不登校児童について、指導部や児童支援専任を中心に、他機関との連携を図る。日々の様子を全職員で見守る。問題の芽を早期発見し、問題解決に向けて全職員で迅速に対応する。毎月の職員会議等での児童理解、児童指導の情報共有を行う。②必要に応じスタンダードの見直しを行う。	①毎月気になる子について情報の共有をした。問題の未然・再発防止、児童・家庭への迅速な対応に繋がった。不登校や虐待が疑われる児童については、区役所や児童相談所等、関係機関連携を図り、実態に即した適切な支援を心掛け、安心・安全を守る対応をした。	A
特別支援教育	①教材の置き場所を決め、明示することや不要物を置かないなどの環境面、何をするかを事前に長期・短期のゴールを掲示・理解しやすい説明などの見直し、指示を明確にするための視覚化等、ユニバーサルデザイン教育を行う。②個別の支援計画と保護者との連携をして実態把握をする。	①②どの児童にもわかりやすい支援をするための重点項目として、「環境」「見直し」「視覚化」を推進した。児童の実態に応じた全職員や関係機関と相談しながら、クラス内での個別支援や「さくらタイム」等の合理的な配慮を進めた。今後も改善を進めていく。	B
地域連携・学校運営協議会	①学校運営協議会を通して、地域や保護者の方々による児童への学習サポートの体制づくりをする。児童・ボランティア・教職員ともに負担が偏らないシステムづくりを行うことで、よりわかりやすい授業づくりをめざす。	①特別クラブやクラブ支援、学習サポートを通してよりわかりやすい学習づくりの体制が整ってきた。児童・ボランティア・教職員の負担感も少ないシステムが構築されつつあるので、今後も見直しと改善を継続して進めていく。	A
a22			
a14			
a23			
a15			
いじめへの対応	①月1回いじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③年3回の児童へのいじめアンケートにより些細な変化や細かい情報を見逃さない体制づくりをする。	①②誰もが安心して豊かに生活できる学校づくりと発達段階に応じた取組の支援を引き続き進めた。いじめの情報が入ったときは、被害者の心情をしっかりと聞き、事実の指導の経過および今後の再発防止策について確認した。③早期発見の体制づくりができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①7年次以下の教職員のメンターチームにミドルリーダーが常時加わり、学級経営の基礎基本について学べるような体制づくりを行う。②三部会を通してミドルリーダーが中心となり、学校の運営を進められるような機会を設けていく。③職員の声を生かして、校務分掌の見直しを定期的に行い、業務の効率化を図る。	①メンターチームでは、日頃の学級経営を中心に研究・研修を行い、若手の学級経営力の向上が図れた。②主幹教諭が中心となり、三部会それぞれの運営を円滑に進めることができた。③職員の声を生かして、行事や常時活動の見直しと改善を図ることができた。	B
ブロック内評価後の気付き	・わかりやすい授業づくりのために、学習サポートなどのシステムが円滑に進められている。 ・地域の材を有効利用し、連携を深めて有効な組織づくりを進めることができていく。 ・児童が楽しく取り組みやすい活動や指導を通して、豊かな心や健やかな体作りに取り組んでいる。 ・働き方改革については、職員の声を生かして、行事や常時活動の見直しなど改善を図ることができている。 ・気になる子に対する対応については、教職員で共通理解を図っている。		
学校関係者評価	・毎週火、水、金曜日の特別クラブなどで教職員の努力が伝わってくる。地域も協力していきたい。 ・読書の機会を増やせるように、学校運営協議会としても独自に読書感想文コンクールを開催するなどしていきたい。 ・読書をする児童とそうでない児童との二極化という現状について、家庭に知らせ協力を要請してもいいのではないか。 ・学力向上のために、地域としてできることを考えていきたい。		
中期取組目標振り返り	・研究や検定等の取組により、児童の学習意欲の向上が見られた。今後、さらに基礎学力の定着とともに、児童自らが学習に取り組む態度の育成を図っていききたい。 ・地域との連携による学習サポートのシステムが整ってきたことで、よりきめ細かな指導が可能になった。今後も、地域との連携を密にし、一人一人の実態に応じたサポートを目指して改善を図っていく。 ・特別クラブの練習や大会で保護者や地域の方々の協力を得て進めることができた。今後、さらなる児童の体力向上と生活習慣の確立をめざし、持続可能な形の特別クラブの在り方を模索していく。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①漢字検定・計算検定について、検定の問題のレベルを見直ししたり、表彰を行ったりして、より意欲的に高い目標をもって取り組もうとする姿勢を育てる。②重点研では、引き続き、本校の児童の読む意欲と読む力を高めるための支援の在り方を追究し、基礎・基本の充実を図っていく。		
豊かな心	①挨拶やふわふわ言葉の励行・礼儀正しい言葉遣いを引き続き年間を通して意識する。学習・算数サポートや地域の方との交流で、顔と名前が分かる関係を続けていく。②異学年交流を充実させ、かかわりを広げるとともに発達年齢に応じたコミュニケーション力の育成に取り組む。		
健やかな体	①体力テストの結果をふまえ、「なわとび」に取り組む。短期に集中した取組を複数回繰り返すことで、児童が継続して楽しみながら体力を向上できるようにしていく。②特別クラブの活動を通して、自らの体力向上や生活習慣の改善に前向きに取り組む態度を引き続き育てていく。		
児童生徒指導	①不登校児童や虐待が疑われる児童について、部会や児童支援専任を中心に、他機関との連携を図り全職員で見守る。問題の芽を早期発見し、問題解決に向けて全職員で迅速に対応する。職員会議等での児童理解、児童指導の情報共有を行う。②必要に応じスタンダードの見直しを行う。		
特別支援教育	①全ての児童にわかりやすい支援をするための重点項目として、環境・見直し・視覚化を推進していく。クラス内での個別支援や「さくらタイム」等の合理的な配慮を進めていく。②保護者や関係機関と連携をして実態把握を行い、個別の支援計画に生かしていく。		
地域連携・学校運営協議会	①学校運営協議会を通して、地域や保護者の方々に参加しやすく、やりがいのある学習サポートの体制を見直し、児童一人一人の実態に応じたサポート体制を目指し、見直しと改善を図っていく。②登下校の見守り等、児童の安全を守るための体制を築いていく。		
b7			
a14			
b8			
a15			
いじめへの対応	①引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①7年次以下の教職員のメンターチームでは、課題意識をもって学級経営について学び、日々の実践に役立てる。②主幹教諭が中心となり、三部会を通して校務を適切に分担し、学校の運営を円滑に進められるようにする。③職員の声を大切に、業務の見直しと改善を図り続ける。		
ブロック内評価後の気付き	・引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		
学校関係者評価	・引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		
中期取組目標振り返り	・引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童生徒指導	c4		
特別支援教育	c5		
地域連携・学校運営協議会	c6		
c7			
a14			
c8			
a15			
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気付き	・引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		
学校関係者評価	・引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		
中期取組目標振り返り	・引き続き、月1回いじめ防止対策委員会から、認知された案件の経過確認を丁寧に行う。再発防止・未然防止に努める。②年2回のいじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対する意識を高める。③いじめアンケートなどを用い、細かい情報を見逃さない姿勢で取り組む。		

重点取組分野	元年度			
	具体的取組		自己評価結果	
生きてはたらく知	136	<131	120	<121
豊かな心	128	<131	119	<121
健やかな体	129	<131	119	<121
児童生徒指導	130	<131	119	<121
特別支援教育	130	<131	119	<121
地域連携・学校運営協議会	100	<131	103	<121
a14	3	<131		<121
a15	3	<131		<121
いじめへの対応	133	<131	121	<121
人材育成・組織運営（働き方改）	143	<151	118	<141
評価 気付き	213		<271	
学校関係者 評価	222		<271	
中期目標 振り返り	258		<271	

重点取組分野	2年度			
	具体的取組		自己評価結果	
生きてはたらく知	129	<131		<121
豊かな心	127	<131		<121
健やかな体	126	<131		<121
児童生徒指導	129	<131		<121
特別支援教育	119	<131		<121
地域連携・学校運営協議会	118	<131		<121
a14	2	<131		<121
a15	2	<131		<121
いじめへの対応	124	<131		<121
人材育成・組織運営（働き方改）	127	<151		<141
評価 気付き			<271	
学校関係者 評価			<271	
中期目標 振り返り			<271	

重点取組分野	3年度			
	具体的取組		自己評価結果	
生きてはたらく知	2	<131		<121
豊かな心	2	<131		<121
健やかな体	2	<131		<121
児童生徒指導	2	<131		<121
特別支援教育	2	<131		<121
地域連携・学校運営協議会	2	<131		<121
a14	2	<131		<121
a15	2	<131		<121
いじめへの対応	2	<131		<121
人材育成・組織運営（働き方改）	3	<151		<141
評価 気付き			<271	
学校関係者 評価			<271	
中期目標 振り返り			<271	